

みる つくる かたる

APPRECIATE

DISCUSS

CREATE



VOL.23
1997

ART NEWS
千葉県立美術館



「美ヶ原高原」 1955年

みる

— 水彩画の魅力 —
〈特別展〉

小堀 進 展

9/6^土 - 10/12^日

「美ヶ原高原」
紙・水彩 1955年

昭和30年に描かれた《美ヶ原高原》は、小堀進が51歳の時の作品です。「必要でないものをできるだけ省いて、エッセンスだけで画面を作ろうとしているわけです。ですからモチーフとしては、道具立てのない広々とした伸びやかなものが好き。山とか平原とか、あるいは海、そして水郷のような広大な風景が私にはぴったりくる。」と作者は述べています。

昭和17年の《初秋水郷》や昭和22年の《驟雨》で対象の簡略化を図っ

た小堀は、昭和20年代に、蓼科、長崎、そして奈良に頻繁に写生旅行に行き、《蓼科高原》や《奈良公園》などを制作。タッチも大胆になり、画面を整理し、作者の言葉を借りれば、風景のエッセンスのみを取り入れるようになります。この《美ヶ原高原》は、小堀様式の完成といえる作品です。

広大な自然の美しい風景を単純な構図と明快な色面構成により重厚で、力強く表現しています。

— 水彩画の魅力 —
〈特別展〉

小堀 進 展

小堀進は、明快な色面表現で霞ヶ浦や山などの風景を描き、水彩画に新たな世界を築いた昭和の代表的な水彩画家です。小堀進の生涯にわたる作品を紹介する特別展「水彩画の魅力 小堀進展」を9月6日(土)から10月12日(日)まで開催いたします。

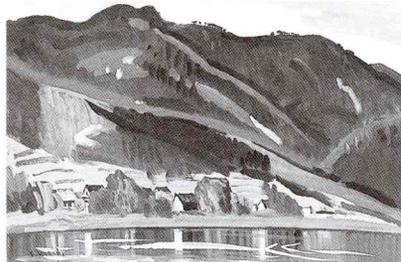
小堀進は、明治37年、北浦に近い茨城県潮来町大賀に生まれました。小学校の頃から絵を描くことが大好きで、県立佐原中学(現千葉県立佐原高等学校)時代に油彩画を描き始めます。同級生に、のちに二科展や日本水彩画会で活躍する山本不二夫がいます。小堀はこの山本等とポプラ会という洋画会を作り、佐原のデパートを会場に、展覧会を開いています。初めての展覧会に小堀は、麻生町から霞ヶ浦を描いた油彩画を出品します。幼い頃から慣れ親しんだ霞ヶ浦の空と水のある風景でした。



川原湯風景 1934年

中学卒業後の大正11年、葵橋洋画研究所に入所し、黒田清輝の師事を受け、絵画の基礎を学びます。葵橋洋画研究所は大正12年に廃校になりますから、小堀は黒田から教えを受けた最後の生徒の一人になります。大正12年に知人の元校長から、代用教員の紹介があり、地元の小学校に勤務します。図画の専科ではなかったので、体操や唱歌も教えました。オルガンの代わりに、バイオリンで唱歌を教えるハイカラな青年教師でしたから、「ただ田舎の因襲的な生活から逃

れたいと思った(*1)」小堀は、母を説き伏せ、昭和4年、一家を挙げて上京します。



球磨川 1973年

葛飾に新居を構えた小堀は、図画の専科で自宅に近い小学校に勤めながら、制作に励みます。

昭和7年、中西利雄、富田通雄等の蒼原会に所属し、水彩画家としての道を歩み始めました。小堀は、水彩画を扱った理由を「教員をしていると油絵を描く時間がない。水彩だと仕事が早くできるし、それに水彩もやってみたかった。グループがあってそれに加わってやってみると、油絵にはないおもしろさが発見できた。(*2)」と述べています。上京して本格的に絵の勉強を始めると、面白くて描かずにはいられない情熱にかられ、教職につきながら、自宅で1日1枚を自分に課して制作に励み、技量の向上を図った小堀にとって、水彩画の選択は当然ともいえます。

昭和7年、白日会展・日本水彩画会展、また翌年には、当時の美術界において、帝展と並び二大勢力となっていた二科展に出品、以後毎年入選を続け、新しい世代のリーダーとして画壇の地位を築いていきます。

しかし、当時の洋画界において、水彩画は不振で、中西が水彩画の変革を行い、新鮮な近代感覚あふれる魅力的な作品を次々に発表し、それに続く新しい世代の台頭が見られるとはいえ、昭和12年の第1回文展では水彩画不要論もわきあがり、水彩画の置かれた状況は厳しいものがありました。

このような状況の中、昭和15年に小堀は、荒谷直之介、春日部たすく、渡辺菊二等8名で、次代の

水彩画の確立、洋画界における水彩画の地位向上をめざして水彩連盟を結成し、その中心的な存在となりました。戦後は日展への出品を中心に制作を続けます。



大穹 1974年

小堀は、1年の半分を国内外の写生旅行に費やし、風景画において独自の作風を展開しながら、中西の色面による単純化と輪郭線の強調をさらに追及し、小堀様式と言われる描法を作っていきます。小堀は、《冠水の跡》(昭和16年)、《初秋水郷》(昭和17年)で、対象の巧みな省略で表現に変化を見せています。これは戦後の《驟雨》に続いていきますが、様式を決定づけるのは、昭和30年の《美ヶ原高原》です。スケールの大きい自然を、単純明快な構成によって、重厚で、力強く表現しています。その後、第1回改組日展に出品した《初秋》で日本芸術院賞を受賞。昭和49年には、水彩画の発展に寄与した功績が認められ、水彩画家としてはじめて日本芸術院会員になりましたが、暮れに体調をくずし、昭和50年3月、71歳で逝去しました。

今回の展覧会は、水彩という素材を愛し、その表現力の確かさを主張し続けた小堀進の芸術と業績を各年代の代表作120点により回顧いたします。

*1「絵師人間」『きょうばし特報』
昭和45年5月号

*2「小堀進氏に聞く 下」『いばらき新聞』昭和49年12月16日

開館時間：9:00～16:30

観覧料：一般 700 (400)

高・大学生 400 (250)

小・中学生 200 (70)

※()内は20名以上の団体料金

休館日：月曜日(9月15日は開館し、翌日休館)

常設収蔵作品展

テーマごとに本館が収蔵する日本画、洋画、彫刻、工芸、書、版画等の作品を展示します。

〈開催中の展覧会〉

◆「房総と近代美術」

6月28日(土)～8月31日(日)
房総ゆかりの作家を始め、日頃鑑賞の要望の高い作品を選んで紹介します。また、展示内容を一部替えて、2月28日(土)～3月22日(日)にも開催します。

◆「書」

6月28日(土)～8月31日(日)
房総の代表的な書家に焦点をあて、多様な書の表現を紹介します。

◆「人物の表現」

6月28日(土)～8月31日(日)
絵画や彫刻の主要なモチーフである人物に焦点を当て、表現方法の違いによるそれぞれの魅力を紹介します。

◆「海・山のある風景」

6月28日(土)～8月31日(日)
海・山の美しさや雄大さを表現した作品を紹介します。

〈今後の予定〉

◆「金工の世界」

11月15日(土)～1月18日(日)
多様な工芸の技法の内、特に金工による作品を紹介します。

◆「素描と油彩画」

11月29日(土)～1月18日(日)
作家の率直なイメージが表現される素描と、これに併せて油彩画を紹介します。

◆「浅井忠とその生涯」

1月24日(土)～2月22日(日)
近代日本洋画の先駆者で、千葉県ゆかりの画家・浅井忠の生涯と芸術を、作品や資料などにより紹介します。

◆「植物の表現」

2月28日(土)～3月22日(日)
美術のモチーフとしてよく用いられる植物をテーマに、日本画や

洋画などの作品を紹介します。

◆「彫刻」

2月28日(土)～4月12日(日)
様々な素材と技法により表現された彫刻作品を紹介します。

第7回現代日本具象彫刻展

「21世紀への飛躍」をテーマに、彫刻作品を全国公募し、入賞・入選作品を展覧するとともに、現代彫刻の動向の一端を紹介します。

出品規程

1. 応募資格
国籍、経歴、年齢を問いません。
2. 応募作品
(1) 平成5年12月以降に制作された具象的な彫刻作品。
素材不問。
(2) 規格は幅1.8m以内、奥行き1.8m以内、高さ2.0m以内、総重量2.0ト以内(台座を含む)
(3) 応募点数は1人1点。
3. 搬入
期 間:11月29日(土)・30日(日)
時 間:午前10時～午後4時
搬入場所:千葉県立美術館
4. 審査員
加藤貞雄、嘉門安雄、建畠哲、富山秀男、本間正義、三木多聞、山梨俊夫
5. 入賞・入選
【大賞】1点。賞状及び副賞(買上賞)600万円
【優秀賞】2点。賞状及び副賞(買上賞)各400万円
【入選】約60点。賞状
6. 会期
平成10年1月24日(土)～
2月22日(日)

第21回千葉県移動美術館

より多くの県民の方々に、本館所蔵の作品を鑑賞していただくため、以下の2会場で展覧会を開催

します。

展示作品は、日本画・洋画・彫刻・工芸・書・版画の各分野にわたる約40点を予定しています。

■第1会場

会場/東金文化会館

会期/11月12日(水)～

11月23日(日)

住所/東金市八坂台1-2107-3

電話/0475-55-6211

■第2会場

会場/ふれあいプラザさかえ

会期/11月27日(木)～

12月6日(土)

住所/印旛郡栄町安食938-1

電話/0476-95-1112

マルク・シャガール展報告

本展覧会は、〈神への祈り〉〈神話の中の英雄と動物たち〉〈愛の讃歌〉〈サーカス〉〈芸術家たち〉の5テーマで構成し、ほぼ一世紀にわたるシャガールの画業を紹介しました。

5月3日(土)から開催し、6月22日(日)に終了いたしました。この間、大勢の方々が来館され、魅力溢れるシャガールの芸術に触れていただくことができました。

また、展覧会開催中の5月31日(土)には、実践女子大学教授である島田紀夫氏を招いて「シャガールの魅力」の演題で、当館講堂において美術講演会を開催しました。多数の聴講者を前に、シャガールの足跡や芸術の特徴等について、スライドを交えて話されました。



シャガール展会場

がたるとつくる

□ 実技講座 □

県民を対象に、創作の体験の場として、各種実技講座を行っています。

※開設時間 12:30～4:30

◆彫刻講座

会期 10月22・23・25・26・28・29・30・11月1・2・5日
講師 福永 巨ふくなが すすむ
内容 木彫
定員 15名
締切 10月8日(水)

◆書講座

会期 12月2・3・4日
講師 宇津木雀聲うつぎ せきせい
内容 漢字・かな
定員 25名
締切 11月18日(火)

◆金工講座

会期 2月12・13・17・18・19・20・24・25・26・3月3・4・5日
講師 小林 正利こばやし まさとし
内容 銅板レリーフ
定員 15名
締切 1月29日(木)

<申込方法>

往復ハガキに希望講座名を記し、住所・氏名・電話番号を明記して、(ハガキ1枚につき1名)「千葉県立美術館普及課」あて申し込んでください。

但し、応募者多数の場合は、抽選とさせていただきます。



金工講座

□ ミュージアムコンサート □

<ハープ三重奏による名曲の調べ>をテーマに、ドヴォルザークやシューベルトなどの古典の名曲や、日本の童話や唱歌などを演奏します。

演奏 ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉
構成 ハープ三重奏(ハープ、ヴァイオリン、チェロ)
曲目 ユーモレスク、セレナーデ、荒城の月、里の秋ほか。
期日 9月20日(土)
2:00～3:30
会場 美術館講堂
定員 200名
料金 無料
締切 9月8日(月)

<申込方法>

往復ハガキに「コンサート希望」と記し、住所・氏名・電話番号を明記して(往復ハガキ1枚につき1名記載)「千葉県立美術館コンサート係」あて申し込んでください。

但し、応募者多数の場合は、抽選とさせていただきます。

□ 美術講演会 □

特別展「小堀進展」に併せて、美術講演会を開催します。

演題 「日本近代水彩画の中の小堀進展」
講師 金原 宏行氏きんばら ひろゆき
(茨城県近代美術館企画課長)
期日 9月27日(土)
2:00～3:30
会場 美術館講堂
定員 200名
料金 無料
※入場は、当日先着順です。



□ こども写生会報告 □

県内の小学生を対象に、写生と展示による「第2回こども写生会」を開催しました。

写生会当日は、小雨が降る雨模様にもかかわらず、参加されたみなさんは、美術館周辺の光景を題材にして一生懸命描かれました。

この日描かれた作品を一堂に展示し、また、この中から、最優秀賞の大槻ゆかさん(習志野市立谷津南小学校4年)を始め、優秀賞6名、努力賞7名を選ばせていただきました。

写生会 7月13日(日)
展覧会 7月29日(火)
～8月3日(日)
参加者 43校92名
授賞式 8月2日(土)



こども写生会

<美術館案内>

- JR 総武線「千葉」駅より「千葉ポートタワー行」バス15分「美術館・中央郵便局前」下車徒歩1分
- JR 京葉線・千葉都市モノレール「千葉みなと」駅下車徒歩8分



〒260 千葉市中央区中央港1-10-1
☎ 043(242)8311(代)